広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	目と耳の散歩
Author(s)	宮本, 邦彦
Citation	広大言語 , 5 : 43 - 44
Issue Date	1965-12-10
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046227
Right	
Relation	

また、根負けもしたとじやろだい、がわつぱに腕ば返して、そのかわい（その代り）、骨接（ホネツギ）の薬ばなるわしたとつてたい。こんくすいば人にためすぎん、ゆうきくもんじやいせん、みるみるうち、分限者になつて、骨接医者さみやならしたとぎやなたい。こんように分限者になつてから、「こぎやんなつたとも、がわつぱのおかげ！ちゆうて、みやう年（毎年）の四月にがわつぱ仲間ば呼うで、ごつつおうさすぎやなとが、そん時にや、座敷んはしにやたりやに（タライに）水ば汲んでえええて（置いて）、がわつぱに足ばあるうて、あがるごとしてあるつちゆうとが、朝汲みたての水のよさい（夕方）なるぎ、泥水になるとぎやなばい。

え！　どぎやんごつつおうばさすとじやろかつてや。そりやがわつぱのお膳つてとくべちして、一家中お膳に座らすつちゆうが、家のもんのたあほんな竹ん子にしめばして、がわつぱんたあ、老えた青竹ば輪切りしてじやあたとちゆうたい。がわつぱがそいば食おうつてするぎ、かとうして（固くて）噛みええじ、人間の歯つて、おつそろしゆう強えもんちゆうて、人間の歯ばおそろしがるとぎやな、そうたい、そこの親父にや、がわつぱの形の見ゆるとぎやなたい。うん、今でん、このがわつぱば呼うで、ごつつおうばしよらす。

そいぎ、今夜はこいでおじゝの話もおしみやあたい。またあすん晩に、はにやあてやるせんにや。ありや、もう寝てしもうとる。

目と耳の散歩

宮　本　邦　彦

築摩書房から出ている「言語生活」に、カメラの散歩という項目がある。ここには、読者から寄せられた看板やポスターの珍文、誤字等が写真入りで載つている。私も先日市内のパチンコ屋の看板に〃PACHINKO　HOOL〃と書いてあるのを写真にとつて来て、さつそく投稿したところ九月号に載つた。以下、私の見かけた面白い看板の文字、表現等について御紹介することにしよう。

市内電車の土橋と十日市の間に大衆食堂があるが、その看板には「皆さん食道」と書いてある。

看板だけでなく、「のれん」にも「食道」と書いてあり、二階の屋根看板から、入口ののれんに至るまでの五ケ所にすべて「食道」と書いてある。食道とは動物の口から胃に至る道のことであるはず。

もう一つのは、福屋百貨店の西側の通り、つまり金座街を南に向けて歩いていくと、途中で、左へ曲る道がある。丁度その三叉路の角にある料亭の看板に「にぎり寿司」と大きく書いて、その横に「天婦°羅」と付けてある。平仮名や片仮名にマルを打つて半濁音を表わすことは小学校で習つた事であるが、漢字にマルやテンを打つて濁音や半濁音になることは、いつ習うのだろうか。

次の例は関本先生に教えて頂いてなるほどと思つたものである。郊外電車の停留所の一つに、「古江」というのがある。そして、ローマ字で、FU RU E と書いてある。一つの単語を音節毎に区切つて書いた誠に読み易い（？）表記法である。もしこの調子で長い散文を書いたらどうなることだろうか。中・高校の6年間ここから電車に乗つていたのに全く気が付かなかつた。

広島の電車に関しては、まだ面白い事がある。その一つは、同一の停留所を二つの名で書いて区別しているということである。大学前から、運転系統③の電車に乗れば、その終点は「己斐」である。電車の行先にも「己斐」と書いてある。ところが郊外線では、この終点へ向かう電車の行先は、すべて「西広島」となつている。更におもしろいのは、車掌さんの言い方である。「間もなく、西広島、己斐終点でございまーす。」いつそのこと、どちらか一つに統一してしまえば良さそうな感じがするが、又、この区別が、市内線と郊外線の区別でもあつて、便利なような気もする。

もう一つは、去年の夏、この己斐（西広島）駅で郊外電車を待つていた時に聞いた、ガイドアナウンスの声である。「・・・・間もなく5番ホームに到着いたします最後部のドアーは開きませんので・・・・。」これでは、ドアがレールの上を走つて来ることになる。電車が入つて来てドアだけ後から別にやつて来るという事は考えられないから、このアナウンスでも十分に意味が通じるのであるが、やはり「・・・・電車の最後部のドアは・・・・。」と言つた方が良かろう。